

令和 7 年度

事業者番号	0267	事業所番号	026702
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	東京都水道局三郷浄水場		
事業所所在地	市区町村	三郷市	
	字・地番	彦江三丁目12番地2	
産業分類名(中分類)	36 水道業		
分類番号(中分類)	36		
事業活動の概要	事業内容	主な製品 浄水 従業員 92人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。(必要に応じて、排出量取引を活用する。)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	274,764	t-CO ₂			
	削減目標量(計画期間合計)	68,691	t-CO ₂	事業所区分	第2区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を48%以上とする。 (必要に応じて、排出量取引を活用する。)				
	その他ガス					

日本産業規格A列4番

事業所番号	026702
-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 (B, C事業所用)

C事業所(2)

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	30,546	30,562	29,639	28,338	32,564

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

		計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂		60,261	60,389	58,231	56,043	56,963
前年度比 (%)		—	0.2	-3.6	-3.8	1.6
その他ガス	非エネルギー起源 CO ₂					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六フッ化イオウ					
	三フッ化窒素					
温室効果ガスの合計		60,261	60,389	58,231	56,043	56,963

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算（t-CO₂/指標）

	計画期間					
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	0.1491	0.1490	0.1436	0.1364	0.1357	
前年度比（%）	—	-0.1	-3.6	-5.0	-0.5	
活動規模の指標単位						
東京送水量+埼玉取水量	千m ³	404,053.00	405,428.90	405,594.30	410,757.00	419,740.50

日本産業規格A列4番

事業所番号	026702
-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（B,C事業所用）

C事業所(3)

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	増加設備 ・脱水機給泥ポンプ, 圧力水ポンプろ布洗浄ポンプ ・R2年度の設備増加による排出量の増加は年29t-CO ₂ を想定しており、基準排出量の6%(4,121t)を下回る。 要因分析 上記のとおり令和二年度に排水処理所内に電気設備が設置され設備台数は増となったが、送配水量等は通年どおりとなったため、排出量もほぼ通年どおりとなった。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	要因分析 指標の送水量・取水量は微増したが、照明設備LED化、排風機インバーター制御による風量適正化、高効率電力調整装置への更新、太陽光発電設備新設等のエネルギー使用合理化取組みがにより、排出量は微減した。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和3年度と令和4年度を比較し、埼玉取水量が微増したが、排出量は減少した。活動規模の指標が増加したにもかかわらず、排出量が減少した要因として令和3年施策（・排水処理所の照明設備をLED照明に改良、オゾン設備の改良工事において排風機のインバーター制御による風量適正化や既設及び高効率の電力調整装置に更新、第二排水処理所に太陽光発電設備を新設）の効果が継続していること、および下記のエネルギー使用合理化の取組みが挙げられる。 ・管理本館の照明をLED照明に改良したこと ・管理本館の空調を高効率のものにしたこと					

令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和4年度と令和5年度を比較すると、北部送水量と埼玉取水量は増、東南送水量は減となり、温室効果ガス排出量は減少した。その要因として、以下の主ポンプにおける速度制御方式をインバータ方式に変更したことが挙げられる。 ・ 東南送水ポンプの1台を変更した。(2/4台がインバータ方式) ・ 北部送水ポンプの1台を変更した。(1/5台がインバータ方式) ・ 高度浄水ポンプの3台を変更した。(4/4台がインバータ方式)					
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	令和5年度と令和6年度を比較すると、商用電源の契約を低炭素電力受入プランへ変更したことが温室効果ガス排出量の減少に寄与した。一方、常用自家発電設備の新規稼働したことで商用電源の電気の使用は大幅に減少したものの、新たに都市ガスの使用が追加された。常用自家発電設備で使用する灯油の新規備蓄を大量に行ったため、トータルで見ると温室効果ガス排出量が微増した。					

日本産業規格A列4番

事業所番号	026702
-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 (B, C事業所用)

C事業所(4)

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	68,691	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出量 等	基準排出量(A)	68,691	68,691	68,691	68,691	68,691	343,455	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ($C = \sum A-D$)							274,764
	排出削減目標量 ($D = \sum (A \times B)$)							68,691
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	60,261	60,389	58,231	56,043	56,963	291,887	
	削減率 ($F = (A - E) / A$)	12.27%	12.09%	15.23%	18.41%	17.07%	—	
	排出削減量 ($G = A - E$)	8,430	8,302	10,460	12,648	11,728	51,568	
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	実施済	未実施		

日本産業規格A列4番

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分		対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称				
1	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	次重注入方式の変更による削減		R1以前	315
2	490200	その他 49_その他の削減対策	フラッシュミキサ停止による運用		R1以前	124
3	330200	空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空気調和設備の定期的な保守および点検の実施		R1以前	
4	380700	照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	誘導灯のLED化		R1以前	9
5	310100	一般管理事項 31_推進体制の整備	地球温暖化対策に関する推進組織の整備		R1以前	
6	380700	照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明設備のLED化等による省エネ		R1以前	1
7	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高度浄水ポンプのVVVF化	R5	R5	
8	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	北部送水ポンプのVVVF化	R7以降		
9	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	東南送水ポンプのVVVF化	R7以降		
10	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	場内給水ポンプのVVVF化	R7以降		
11	380700	照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	原水ポンプ所照明設備の高効率化による省エネ	R7以降		
12						
13						

14							
15							

日本産業規格A列4番

事業所番号 026702

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 (B,C事業所用)

C事業所(6)

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area, intended for free description, occupying most of the page. It is bounded by a thin black line.